

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。  
今年もあっという間に師走。みなさまいかがお過ごしでしょうか。  
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動していきます。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、  
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。  
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、  
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

Ⅰ 奈良県農民連 食でつながる文化祭 参加報告

■ Ⅰ ■ 奈良県農民連 食でつながる文化祭 参加報告

12月3日、奈良県農民連主催「食でつながる文化祭」で学校給食についてのパネルディスカッションに登壇させていただきました。登壇したのは、農家の原澤さん、大和郡山子どもの食を考える会の喜多さん、新日本婦人の会の加奥さん、そして奈良の学校給食を考える会の上市の4名です。

上市からは、東京大学大学院教授の鈴木宣弘さんのお話（メルマガ2023年10月号vol.117参照）をもとに、日本の農業の危機的な状況をご紹介します。そのための切り札が地産地消をオーガニック給食であるというお話をさせていただきました。

農家の原澤さんからは、なんとかしてお米の価格を上げたいという話がありました。2022年度の日本のコメの生産量約670万トンに対し、消費量は693万トンと、主食のコメですら自給できていない状況にあります。その主な原因として、稲作だけでは生活が成り立つほど稼げないという問題があります。いま、コメ60kgつくるのにかかるコストが15,000円なのに、9,000円でしか売れない。差額の6,000円は農家の持ち出しになっているような状況があります。そこで原澤さんの提案は、1町の田んぼでコメをつくれれば最低限生活できる＝300万円の手取りがある状況をつくれないうもの。まず稲作で生活を安定させる、その上で野菜など他の作物に挑戦できるような体制がとれれば、農家を増やすことができるのではないのでしょうか。そのためにオーガニック給食をはじめ、行政の補助なども検討してもらえよう働きかけたいと話します。

大和郡山子どもの食を考える会の喜多さんは、会が取り組んでいる玉ねぎプロジェクトに参加したことをきっかけに、お連れ合いが会社員を辞め農家になったという経歴をお持ちです。農体験というと子ども対象と考えがちですが、実は親世代も体験したことのない人がほとんど。体験を通して農を身近に感じ、少しずつでも関わりを持つ人が増えることが未来への希望につながっていると実感しています。

新日本婦人の会の加奥さんからは、学校給食の無償化に対する思いをお聞きしました。憲法 26 条に「義務教育は、これを無償とする」とあります。学校給食法では、学校給食は「教育の目的を実現するために」実施されるとあります。であるなら、学校給食も無償であるべきではないでしょうか。学校給食は、どんな家庭状況の子どもであってもせめて 1 日に 1 食は安心安全な食事を、というライフラインであり、子どもの権利です。子どもの権利保障という意味でも、学校給食は無償化されるべきだと訴えました。

質疑でもさまざまな意見交換がされ、「有機農産物は価格が高いかもしれないけど、健康を買うつもりでお金を払っている」という意見や、「家の中で親が関心を示すこと、話題にすることで、子どもたちにもアンテナが育つ」という意見もありました。

学校給食はただの「昼食」ではなく、食育、農業、環境、地域経済などわたしたちをとりまく社会と密接に関係し、またそれらをより良くしていく可能性に満ちた大きな存在であることを再確認しました。少子化で学校給食を食べる子どもたちはこの先減っていきます。だからこそ、ひとりひとり、1 食 1 食をもっと大事に提供していくことが可能になっていくはずです。学校給食を中心として、人と人がつながるまちづくりを目指して、これからも活動していきます。

---

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (田原本町西竹田 33-1)

---